



春闘討論集会まとめ (要約・編集部)

1. 要求額は、基本給一律20,000円以上とします。
2. 安倍政権がおこなってきた辺野古新基地建設、軍事費の増大など、戦争できる国づくりに、東アジアの国々と連帯して闘います。
3. 17年の衆議院選挙で取り組んだ野党共闘を、さらに市民と野党の共闘へと強化します。
4. 「アベノミクス」は約450兆円の国債発行のバラマキ財政。株価を仮想的につり上げた反面、弱者切り捨てで「社会保障」を縮小させる。「森友・加計問題」など、国民を愚弄する安倍政権を断固反対します。
5. 福島原発事故の収束も見えない。営業稼働が1度も無い、事故と老朽化の「もんじゅ」や40年以上経過した老朽原発の継続稼働に反対。人類と共存できない原子力政策に反対し、エネルギー転換を求めます
6. 「官制春闘」などといわれる政府と一部の大手企業が進める「春闘」では無く、私たちは大衆路線を基本に、要求実現のための春闘を闘います。
7. 春闘カンパ（中央・組織拡大を含む）で最大限の取り組みを進めます。



春闘を闘う決意が示された！

書記長 林 繁行

大阪支部2018春闘討論集会が、1月13日(土)～14日(日)の両日、ホテルクライトン新大阪において、総勢70名の参加で開催されました。

冒頭、國分副委員長のあいさつ、座長にミナト産業分会・青野秀樹氏と此花荷役分会・関谷和人氏の両名を選出しました。

樋口執行委員長は開会において、社会・労働情勢に対する現状認識・分析と18春闘にさいして、支部として団結に向けてのあいさつがありました。

その後、春闘方針(案)の提案があり、分散会に移り、参加者をA・B・Cの3班に分けて行い、特にC班については青年層を中心としました。

分散会の主要テーマは「次世代の課題と育成」。約2時間のうちに様々な発言がありました。(別掲)

2日目は、まず、新分会の紹介が行われ、広島・加藤運輸分会・櫻井修司分会長から、分会を強化・拡大する決意表明が行われました。

続いて、港湾部会・車両部会から、それぞれが行った討論集会の「まとめ」報告がありました。特に、生コンブロックなどからは賃上げ要求額を2万円以上との提案がされました。

3つの分散会からの報告では、闘う決意と共に、全体的に高齢化が進んでいること、若手組合員を教育する環境が不十分であること、人員補充(若年層)が出来ていない等の問題提起もなされました。



その後、18春闘方針(案)に関する質疑討論に入り、延べ17名からの発言がありました。発言では、港湾と車両との労働条件の格差、即ち全国港湾などの港湾産別をバックボーンとして一定の労働条件が確保されている港湾関係と、産別組織が機

能していない車両関係労働者では、賃金・一時金を含む労働条件の確保が総体的に困難であるとの問題提起がありました。また、要求額は2万円が提案されているが、それ以上の賃上げが必要ではないか、あるいは定年延長の獲得や人員補充、メンタルヘルスの対応など、活発な議論が行われました。

これらの議論を踏まえ、樋口執行委員長から、要求額2万円以上、米国による「朝鮮敵視」政策反対、辺野古新基地建設阻止、軍事費の増強反対、憲法改悪を含めたあらゆる反動諸法の廃止、脱原発と自然エネルギーへの転換、組織強化・拡大のための春闘カンパの取り組みと「討論集会まとめ」が提案され、全体で確認しました。

座長解任後、小林副委員長の閉会のあいさつの後、樋口執行委員長の団結ガンバローで、散会しました。

盛り上がった！ 支部旗開き

2018年支部新春旗開きが、春闘討論集会の1月13日(土)の午後6時から、ホテルクライトン新大阪において組合員70名(執行部含む)、来賓41名、ゲスト1名の112名が参加して、開催されました。

部・大野 進執行委員長、大阪港湾労働組合協議会・小嶋敏弘議長、全日建連帯労組関生支部・坂田冬樹副委員長、社民党大阪府連幹事長・長崎由美子さん、立憲民主党衆議院議員・尾辻かな子さんより来賓のあいさつをいただきました。

んのたたかいの歌で、会場は一気に盛り上がりました。



歌の後は、参加者期待のビンゴゲーム。賞品が当たるたびに歓声が上がリ、獲得者はすぐに中身を確認して、喜んだり、失望(?)したりと、にぎわいました。景品は、参加者のほとんどに行き渡るよう準備されていたので、熱気あふれる旗開きとなりました。

最後に、小林副委員長より閉会のあいさつと来賓の方々へのお礼が述べられ、樋口委員長の団結ガンバロー三唱で閉会となりました。



冒頭、樋口執行委員長の年頭のあいさつから始まり、関西地方本



その後、乾杯の音頭をトラック懇話会・近畿の森藤啓次郎幹事より唱和して頂きました。懇談後、ゲストの川口真由美さ